全国高校選抜

全国高校選抜大会は28日、各地で行われ、愛媛勢は自転車で松山学院勢が躍動した。男子ケイリンで河上駿太が頂点に立ち、女子ポイントレースでは近田ちひろが２位、江崎結衣が３位で続いた。男子ポイントレースの木綿峻介は４位。３日間のトラック競技を終えた時点で松山学院は男女とも学校対抗総合成績で首位。29日のロードレースで最終成績が決まる。

アーチェリーでは女子個人で松下朋那未（松山東雲）が準優勝した。

男子ケイリンで優勝した松山学院の河上駿太＝北九州メディアドーム（提供写真）

自転車男子ケイリン　河上（松山学院）完勝劇

「先頭譲らない」狙い通り

圧倒的な脚力で後続を引きちぎり、河上駿太（松山学院）が男子ケイリンで頂点に立った。ライバルに駆け引きの余地すら残さない完勝劇を演じ、河上は「仲間から絶対に勝てと言われて送り出されていた。思い通りの展開に持ち込めた」と喜びを語った。

スタートから先頭でレースを進め、ライバルを威圧した。ペーサーが外れ周囲のスピードが上がっても、河上は先頭を譲らない。「今回はどの枠に入っても先行して優勝すると決めていた」。長い手足を大きく使った疾走態勢で加速に移ると、食い下がる相手をぐんぐん引き離した。

「最後の半周は足がいっぱいいっぱいだった」というが、勢いは鈍らない。「上半身の力がつき、体幹が使えるようになった。最後にもう一度踏めた」。河上を風よけにして迫る後続に一瞬たりとも先頭を明け渡さず、ただ力でねじ伏せた。

昨夏の全国総体では後方からの追い上げに徹したが、高い速度を長く維持できる特長を生かそうと、今年は先行型で勝負する。「もし競輪選手になれた時、活躍できそうな脚質でやっておきたい」。パンクで活躍する将来像を胸に、まずはカタカナの「ケイリン」でチャンピオンになった。（柳生秀人）

ポイントレース女子２位・３位　近田・江崎（松山学院）届かず

女子ポイントレースで優勝を目指す「ガチンコ勝負」に挑んだ。序盤は近田が積極的に動いてポイントを重ねたが、大きな得点には届かず「足だけを使う」と反省を口にした。

2人は29日の最終日のロードレースにも出走する。近田は「順位も大事だが、自分から積極的に動いて内容あるレースをしたい」と悔いなく戦いきることを誓った。（柳生秀人）

女子ポイントレース２位の近田ちひろ（左）と３位の江崎結衣＝北九州メディアドーム（提供写真）

◇…愛媛勢の成績…◇

▽自転車…（北九州メディアドーム）

▽男子ケイリン準決勝
1組 ①河上駿太（松山学院）11秒245＝決勝進出
▽同決勝 ①河上駿太（松山学院）11秒321
▽同4000メートル速度競走決勝 ⑤岡部優楼（松山工）
▽同ポイントレース決勝（2万4000メートル） ④木綿峻介（松山学院）13点
2組 ⑤玉井葵延（松山学院）13秒602
▽同ケイリン準決勝
1組 ③三谷優空（松山学院）＝決勝進出 ④松崎光優（松山学院）
2組 ⑤三谷優梨（松山聖陵）
▽同準決勝 ⑤三谷優空（松山学院）
優梨（松山聖陵）
▽同ポイントレース（1万2000メートル） ②近田ちひろ（松山学院）12点 ③江崎結衣（松山学院）12点（2、3位は着順による）
▽同決勝 ①梅田そら（松山東雲）6―4 ②黒田彩夏（松山東雲）
▽同準々決勝 ①梅田そら（松山東雲）6―4 英和 ②黒田彩夏（松山東雲）
▽同準決勝 ①梅田そら（松山東雲）6―4 ②林優奈（神奈川・横須賀総合）
▽同決勝 ①松下朋那未（松山東雲）6―0 ②小泉千咲（山口・西）6―2 ③松下朋那未（松山東雲）

▽アーチェリー…（掛川市つま恋リゾート彩の郷第1多目的広場）
▽女子決勝トーナメント2回戦
松下朋那未（松山東雲）6―0 西 ②毛利愛奈（広島・海田）6―4 ③黒田彩夏（松山東雲）
▽同決勝トーナメント3回戦
松下朋那未（松山東雲）7―3 新田 ②古日和子（東京・足立）

▽男子団体3回戦
東海大浦安（千葉）4―0 ②松下朋那未（松山東雲）
▽女子シングルス準々決勝
白川菜結（山口・柳井商工）2―1 ②佐々木弥都（新田）
▽同準決勝
梅田そら（松山東雲）6―4 ②林優奈（神奈川・横須賀総合）
▽同決勝
小泉千咲（山口・西）6―2 ②松下朋那未（松山東雲）

▽バドミントン…（徳島ダイハツアリーナ）
宇和島東（愛媛）4―0 ○山口メー善家

2024年３月２９日（金）愛媛新聞掲載
（掲載許可番号：d20240401-08）